

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月21日

事業所名 ウィズ・ユー大宮

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		必要に応じて部屋を使い分けて対応している。	部屋を2カ所に分けることができるので、児童の人数、特性、組み合わせ等を考慮し、最適な配置を考えるようにする。
	2	職員の配置数は適切である	○		原則、児童2名に対して職員1名の比率で配置をしている。	パート職員を採用し、必要な業務や時間帯に厚みを持たせる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			施設が2階にあることもあり、階段は避けられない。今まで通り職員が一緒に付き添うことを徹底する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			PDCAサイクルを回しているが、回数や回転のスピードを上げて今まで以上に意見を出し合えるようにしたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			自己評価の意見はしっかりと受け止め、今後の施設運営に活かしていく。特にマニュアルの整備が課題であることが分かった。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページで公開している。 またご家庭にもホームページに公開していることを周知いただく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価は行っていないので、今後、検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間の研修内容を決め、月に1回研修を行っている。	年間スケジュールにそって研修を行っているが、研修内容の見直しも行い内容を充実させていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			定期的にあセスメントを行っている。また、その内容は支援計画に反映させている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			施設基準にそったアセスメントシートを使用している。項目については、随時、見直ししていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			常勤職員中心にプログラムを立案している。パート職員も含めてプログラムを検討していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		集団と個別のプログラムを用意している。イベントも多数、用意。	基本的な流れは決まったものがあるが、付加価値を与えられるようなプログラムを加え変化をつけている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			休日、長期休暇の課題設定がやや弱い。今後はその点を明確にした支援を行っていききたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			児童の状況に合わせて、組み合わせた支援を行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼を毎日、実施している。	毎日、社員朝礼を行い、情報を共有している。今後はもう少し踏み込んだ話もできるようにしていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			送迎時間やパート職員の退勤時間にバラつきがあるため、全員そろって振り返りはできていない。ただ、当日のできごとは管理者に報告し、全体にフィードバックできるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			記録はしっかりつけることができる。ただし、つけ方には職員によって内容に差があること。また検証・改善につなげられるように活かしていきたい。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的にモニタリングの実施と支援計画を作成している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		研修でガイドラインの読み合わせを行っている。	研修時にガイドラインの読み合わせを行っている。幅広く基本活動を組み込めるようにしていきたい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		施設の児発管、管理者が参加するようにしている。今後も考え、帯同できる職員も検討していきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		情報共有については、学校によって対応にバラつきがある。連絡は必要に応じてとることができている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在、医療的ケアが必要な児童の受け入れを行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保育園等とは直接、情報共有ができていないが、相談支援事業所が間に入って情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	現状、高校を卒業する児童がまだいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関とは必要に応じて連絡をとり、情報共有するように努めている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	今年度は行事として障害のない子供と活動する機会を持てなかった。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		参加するようにしている。参加できる職員も増やしていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		口頭でお伝えする頻度は少ないが、毎日の記録を見ていただき状況を確認いただいている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		ペアレント・トレーニングとまではいかないが、必要に応じてアドバイスさせていたがっている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		新規利用時に説明を行っている。その他、確認も踏まえて定期的に説明の機会を检讨する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期面談時や送迎時等に必要に応じて話しを伺い、アドバイスをしている。気軽に相談いただけるように集まれる機会を检讨してみる。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナの影響もあり、父母の会のような一斉に集まって話す機会を作れなかった。来年度に检讨する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があった場合は迅速に対応することを心がけている。また、苦情が発生しないように普段から意識して行動するようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		2か月に1回程度、会報を発行している。引き続き有意義な情報を発信していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付き書庫に保管している。防犯カメラも設置し、取り扱いに注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ご家庭とは利用者の目線に立ち接するように心がけている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		3月にウィズ・ユア合同でやきいもpeace様を招いたイベントを実施した。地域に方も参加して下さい、来年度も実施予定。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		保護者への周知が十分ではないので、マニュアルを再度、整備し配布できるようにする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年間スケジュールにそって定期的に訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年間の研修スケジュールに組み込んでいる。	年間スケジュールにそって定期的に研修を行っている。それ以外にも細かく確認できる機会も増やしていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		身体拘束を行う児童がいないが、そういったケースも想定して職員間で話す機会を設けてみる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		児童のアレルギーは把握しているが、医師の指示書までは現状、預かっていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			小さなことでもヒヤリハットをあげるようにして、事故を未然に防げるように心がけている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表: 令和5年3月21日

事業所名 ウィズ・ユ-大宝

保護者等数(児童数)

回収数 25 割合 60%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	21	2		2		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	16	2		7	どれくらいの子童に対して何人職員がいるのか、毎回何人の職員がいるのかは知らないです。	
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	12	7	1	5	大宝の階段は少し急かと思う。玄関入口付近の階段が勾配があって昇り降りが不便。大宝の階段は少し怖い	安全面を考えてなるべくゆっくり階段を昇り降りしておく
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	17	7		1	計画作成一実行がなされているかが不明	
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	23	1		1		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	5	4	2	14		
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21	4				
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	18	7			送迎の人によると思います	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18	7				
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	5	5	14		
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	18			7		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20	3		2		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	20	3		2		
14 個人情報に十分注意しているか	21	1		3			
非常時等の対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	20	1	1	3	緊急時、防犯のことはわからない	
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	11	1	2	11		
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	22	2	1			
	18 事業所の支援に満足しているか	22	2		1		

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。